

特集—コロナ禍の今、 救急救命を考える



救急隊は、いつ起こるか分からない事故や病気に24時間365日いつでも現場に駆けつけ、皆さんの命を守っています。9月9日の「救急の日」にあわせ、市民生活に密接に関わる救急救命の現場について紹介します。

▲救急隊は通常、隊長1人・隊員2人の3人体制で現場へ向かいます

☎警防課 (☎0848・64・5924 📠0848・64・5911)

救急隊は、急病人やけが人を現場から医療機関に搬送するまでの間に、傷病者に対して応急手当や救命処置などの病院前救護を行います。救急救命士は、電話で医師の指示を受けながら気管挿管や静脈路確保、薬剤の投与といった高度な救急救命処置を行うことができ、とても重要な役割を担っています。各自治体が実施する消防職員試験に合格することに加えて、救急隊員としての実務経験や施設での研修など所定の受験資格を満たし、**国家資格である「救急救命士免許」を取得する必要があります。**



より多くの人の命を救えるように——
救急救命士 溝辺優生

消防士をしている父に憧れて、幼い頃から消防士になることを夢見ていました。しかし、当時父から救急救命士の数が少なくて搬送中に亡くなる人が増えているという話を聞き、自分が救急救命士になることで少しでも救える命が増えるならと資格を取得しました。現場処置や搬送手段など変わり続ける救急現場に

現場の声

対応できるよう、出勤の合間にも技術面や医療についての勉強を続け、現場で生かせるようにしています。新型コロナウイルス感染症の流行で、感染防止対策も変化していますが、目の前の命を救うことを主眼に、患者さんのことを第一に考え、一つ一つの現場に丁寧に対応していきます。

救急現場に駆け付けるのは 救急車だけじゃない!?

急病やけがで119番通報すると「救急車」だけが来ると思いがちですが、実はそうではありません。救急隊だけでは対応が難しいと予想される場合など、状況や目的に応じて、他の消防車両も出動します。救急現場に出動する車両について紹介します。

消防ポンプ自動車 Pumper



消火栓や防火水槽などから吸水して消火にあたる車両。
【所有台数】7台(三原署2台、三原西署1台、世羅署1台、糸崎出張所1台、久井出張所1台、大和出張所1台)

消防隊と連携

傷病者の救護や救命措置をより迅速に行うため、救急隊は消防隊と連携(PA連携)して救急・救護活動などを行なっています。PIは消防ポンプ自動車(消防隊)、AIは救急車(救急隊)。

高規格救急自動車(救急車) Ambulance



傷病者を医療機関へ搬送する車両。救急救命士が応急処置できるよう、患者監視装置や人工呼吸器などの救急資材を装備、積載しています。
【所有台数】9台(三原署2台、三原西署2台、世羅署1台、久井出張所1台、大和出張所1台、世羅西出張所1台、予備車1台)

救助工作車



交通事故など救助が必要な現場に出動します。ウインチやクレーンなど100アイテムを超える救助資材を搭載しています。
【所有台数】1台(三原署)
※救助資材は、他署にも装備しています。

救急艇

佐木島・小佐木島などで傷病者が発生した場合に病院へ搬送するために救急艇を使用します。【所有数】1隻(三原港)



消防職員の中には潜水士の資格を持った職員が30人います。三原署敷地内にある訓練施設や海・川などで潜水訓練をしています。

ドクターヘリ

重篤で緊急性の高い場合、救急隊の要請で出動し、搭乗する医師により現場で救急医療が行われます。広島県ドクターヘリを中心に、必要に応じて近隣(他県)のヘリとも連携し、活動しています。



救命現場

コロナ禍でここが変わった!

新型コロナウイルス感染症の流行により、救急救命に当たる際の装備や設備が変わっています。変更点の3点について、紹介します。

2. 救急車の中の装備



▲オゾンガス生成装置

市所有の救急車全車に、新型コロナウイルスなどの感染性のウイルスを死滅させる「オゾンガス生成装置」を搭載しています。

3. 患者を搬送する設備



患者収容器 (カプセル)

新型コロナウイルスへの感染の疑いのある患者を搬送するときには「**アイソレータ**(感染症患者搬送装置=患者収容器と除菌装置の総称)」を使用しています。

除菌装置

患者収容器には、外にウイルスを出さないようにする役割、除菌装置にはウイルスを死滅させる役割があります。

1. 救急救命士の服装

装着するマスクの種類や感染防止衣など、救急対応するときの救急救命士の服装が一部変わっています。



ゴーグルなどの目の保護具

コロナ仕様

★N95マスク

コロナ禍の中、心肺蘇生や気管内吸引などで一時的に大量のエアロゾルが発生しやすい状況の場合に使用する

プラスチックグローブ (手袋)

感染防止衣(上)

コロナ仕様

★感染防止衣(下)

より安全に救命措置を行うため、コロナ禍では感染防止衣(下)も着用している



救急救命

Q & A

～いざという時のために～

Q2 倒れている人を見つけたらどうすればいいの?

A2 119番通報する前に「意識があるか」「呼吸はあるか」を確認してください。呼吸がなければ心肺蘇生法(※)を行う必要があります。しかし、**コロナ禍**の

今、倒れている人については**コロナに感染している可能性があると考えて対応することが必要**です。

(※)1度でも救急救命講習を受講したことがある人は勇気を持って心肺蘇生を行なってください。経験がない場合や不安な場合は119番通報し、倒れている人に呼吸がないことを伝え、通信指令員の指示のもと、心肺蘇生を行なってください。

⚠️ コロナ禍での処置の注意事項

- ①絶対に**患者の体に直接触らない**
ハンカチや未使用のマスクなどを口に被せて対応してください
- ②意識や呼吸などを確認する場合に、**顔を近づけない**
- ③心肺蘇生法を行うときに**人工呼吸はしない**
- ④救急車に乗せた後は、**しっかりと手指の消毒を行う**

もしものときに応急手当ができる! 救命講習の受講を

市では、各種救命講習(応急手当)やeラーニングを活用した応急手当ウェブ講習を行なっています。希望者が5人以上集まれば個別で講習を行うこともできます。詳しくは**市HP**で確認、または問い合わせてください。



▲市HP

Q1 A1

救急車を呼ぶか判断に迷ったらどうすればいいの?

スマートフォンを持っている人は「**全国版救急受信アプリ Q助**」を利用してください。画面上で症状を選択すると症状の緊急度を素早く判定。必要な対応を案内され、救急車を呼ぶ目安になります。



全国版救急受信アプリ Q助 ▶



聴覚や発話に不安がある場合は、**NET119緊急通報システム**を利用すれば、スマートフォンや携帯電話のインターネット接続機能を利用して、簡単な操作で素早く119番通報することができます。



NET119緊急通報システム ▲

本当に命の危険がある人の通報が受け付けられるようご協力を

救急車の出動件数のうち、例年約3割は入院を必要としない「軽症」です。軽症の全てが不要不急の要請であったわけではありませんが、「どこの病院で見てくれるか分からないから」「救急車で行けば早く診てもらえるのでは」「タクシーだとお金がかかるから」などの緊急性のない通報もあります。本当に命の危険がある人の通報を受け付けるために、救急車の適切な利用をお願いします。

